



1 「出荷作業が一番大変。でも一番嬉しいとき」。先代と共に栽培をしている二代目生産者の佐藤善仁さん。2 出荷作業中。切り花の切り口に、水を入れた「フレッシュホルダー」取付け、「フラワーキャップ」を巻いて出荷。3 「これまでいろんなお花を栽培してきましたが、なかでもシンビジウムが一番好き!最高の花です」と佐藤真志子さん。4 雪の中にハウスが並ぶ。ハウス内は15~17℃に保たれている。5 上から3カ月目、半年、1年目、3年目のシンビジウム。

# JA秋田ふるさと シンビジウム



ナビゲーター  
JA秋田ふるさと  
営農経済部 園芸果樹課  
高階 崇之さん

お花が大好きです。「シンビジウム」が県内でも栽培されていると聞きました。詳しく知りたいです。



シンビジウムは比較的に寒さに強く、とても花持ちが良いのが特徴です。JA秋田ふるさとでは、11月末から3月頃までが出荷の時期。この横手市十文字地区は北限の産地で、クリスマスや正月に需要が高まります。鉢や切り花で出荷しますが、切り花の場合、箱詰めは等級により入り数が変わってきます。一箱6~10本入りで秋田生花、仙台生花をメインに、札幌や東京などにも出荷しています。単色よりも、色の異なる品種を混ぜたミックスが人気です。

出荷するまでに3年かかるとお聞きしましたが長い道のりですね。  
そうですね。シンビジウムは株から育てて出荷できるようになるまでに3年かかり、手間もコストもかかります。ハウスは自動で温度調節ができるようになっていて、冬期間は15~17℃で管理しています。害虫の被害を避けるためと、ハウス内は暖められた空気の上の方に溜まることもあり、土台を組み立て、地面より高い位置で育てています。  
茎がまっすぐ伸びていることが良品の条件ですので、丈が50cm以上にもなるシンビジウムは日々の管理が大切。蕾や花の重さで茎が曲がりやすいため、支柱を取り付ける必要があります。他にも、雑草取りや水やりなど、栽培期間の3年間は手間がかかりますが、手間をかけた分、本当に美しい花を咲かせてくれます。

●ふっくらとした蕾がかわいいです!今の時期には贈答用としても良いですね。

色さまざまですが、品種は多いのですが。管内では5人の生産者(鉢物3人、切り花2人)が、30種類を超える品種を栽培しています。市場で人気が高いのはピンク系の品種ですが、新品种の導入を積極的に行っています。グリーンの花弁が美しい「クリスマスビューティ」、「新緑」、濃い桃色の「エアハート」、黄色の「サンゴールド」、薄いピンクの「ピエガール」、ふっくらしたピンクの「福娘」など、雰囲気のある名前品の品種が揃っています。  
管内で生産されているものは他県のものより色づきが良いと、市場でも高評価です。以前、シンビジウムの生産では大先輩の高知県から来た視察の方が「高知では色が出づらいが十文字の花はきれいに発色している」と驚いていました。管内の気候は、昼夜の寒暖差が大きいため、シンビジウムに適した環境なのです。  
これからの目標は

## DATA シンビジウム



お問い合わせ先  
JA秋田ふるさと  
営農経済部 園芸果樹課  
TEL.0182-56-4108  
<http://www.akita-furusato.or.jp>